

三位一体

澤田 嗣郎

このたび、はからずも本会会長をお引き受けすることとなりました。本会は、私にとって第二の職場のようなもので、研究発表の場でありいろいろな情報を得る場でもあります。会長に就任するにあたり、気持ちも新たに本会発展にいきさかでもお役に立つよう努力する所存であります。

最近のわが国の予算はほとんどの経費が削減されるなか、科学研究費だけは飛躍的に増加し科学立国を目指すわが国の熱い期待が我々研究者並びに技術者に寄せられています。そのなかで、本会と真に関連深い国家プロジェクトが本会や分析機器工業会の努力のかいあって、スタートいたしましたことはご同慶に堪えません。しかし残念なことに、本会会員による応募テーマの採択率は期待したほどではありませんでした。

本会の会員は1万人には及ばないとはいえ、会員は関連する大学をはじめとする国公立の研究者や大学院生、ユーザーとしての産業人、さらに機器開発メーカーで働く方々お呼び法人から構成されていることは言うまでもありません。

そのなかで、私が関心を持っているのは、大学で分析化学の教育を受けた人々が卒業後どのような場所で活躍しているかです。詳細な調査データを今は持ち合わせていないので、私が勝手な推測をして甚だ不謹慎のそしりを免れないのですが、多くの卒業生は、広い意味での化学関連会社の技術者としてあるいは研究者として活躍していることと察します。そしてそこでは、分析化学はユーザーのツールとしてそして分析技術者はその存在を評価されているのではないかと思います。

分析化学は、いうまでもなく基礎化学の一翼を担う分析化学

基礎研究と、実学としての応用分析学、並びに計測するための方法論や機器の開発が三位一体となってその存在が顕示されることは言うまでもありません。しかし残念なことに基礎科学としての分析化学教室の漸減現象は歯止めがありません。また、分析化学講座の卒業生が機器開発メーカーで活躍していることをあまり耳にしたことはありません。分析機器メーカーで分析機器を開発している技術者や研究者は、残念ながら物理教室か電気・機械工学出身が多いことはよく知られた事実でしょう。

大学や国公立の研究機関で上述の三位一体となった分析化学の、バランスの取れた人材養成がなされていないのではないかと危惧されます。本会では Analytical Sciences という欧文誌を毎月発行していますが、これを日本語に訳すと分析科学となります。私は三位一体となった分析教育は、分析化学ではなくまさしく分析科学でなければならないと常日頃から考えてきました。本会の名称は、本当は日本分析科学会であるべきなどと主張するつもりはありませんが、化学系の会員ばかりでなくもっと広い分野から会員が一人でも増えることを期待したいものです。

このような思いに至った理由は、上述の国家プロジェクトにおける本会会員による提案があまり採択されなかったことや、大学における分析教室の漸減現象と無関係でないと思うからです。

分析化学で重要な位置を占める分離化学や前処理化学と同じくらい重要な分析機器開発や新規方法論の研究が、わが国の分析科学教育の一環として行われる日はいつか来ると信じます。

会員の拡充に御協力を !!

本会では、個人（正会員：会費年額 9,000 円＋入会金 1,000 円、学生会員：年額 4,500 円）及び団体会員（維持会員：年額 1 口 79,800 円、特別会員：年額 30,000 円、公益会員：年額 28,800 円）の拡充を行っております。分析化学を業務としている会社や分析化学関係の仕事に従事している人などがお知り合いにおられましたら、ぜひ本会への入会を御勧誘くださるようお願い致します。

入会の手続きなどの詳細につきましては、下記に御連絡いただければ直ちに御案内致します。

◇〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (株)日本分析化学会会員係

〔電話：03-3490-3351〕